

第18回 定期総会

猪狩 由美 (高20回)



桜丘会四倉方部総会

桜丘会 四倉方部会報

第 18 号

発行 桜丘会四倉方部
責任者 山野邊 節 子



本校、桜丘会四倉方部会の

なりたちへの思い

会長 山野邊 節 子

会員の皆様、お健やか
にお元気に日々をお過
しの事と推察致して居り
ます。

令和四年七月、第十八
回総会において会長に選
任されました。どうぞよ
ろしくお願い申し上げま
す。皆様方とのお目通り
の機会がなかなかござい
ませんので、会報を通じ
本校及び四倉方部の設立
等振り返り記して見たい

と存じます。

本校は明治三十七年「私
立磐城女学校」として設立
その後「福島県立磐城高
等女学校」「磐城女子高等
学校」そして九十六年間
に及ぶ女子教育が終わり
を告げ、平成十三年に「磐
城桜が丘高等学校」と四
度目の校名変更となり男
女共学となりました。令
和六年創立百二十周年を
迎え記念事業が計画され
十月十二日「アリオス」に

役員改選

新会長に山野邊節子さん

令和四年七月十日四倉
方部定期総会を22名出席
のもと「四倉商工会館」
において開催しました。
物故者への黙祷後、鈴木
たか子会長に挨拶を頂き
ました。
議事に入り令和一〇三
年度事業報告・会計決算
報告、会計監査報告が承
認され、次に令和四〇六
年度の事業計画案・会計
予算案が承認されました。
役員改選においては、
新しく会長に山野邊節子
さん、副会長に菅波アイ
子さん、猪狩由美が選出
されました。新旧役員挨
拶では、退かれた鈴木た
か子様に感謝の気持ちを込

めて花束を贈呈しました。
総会終了後、DVD映
像で、我が母校「磐城女
のあゆみ」を鑑賞し、創立
当時から現在までの貴重
な姿を紹介しました。
新型コロナウイルス流行
の最中で、予定していた
研修旅行も延期となり、
会員同士が顔を合わせる
機会も少なくなっていま
い、いろいろ制約を求め
られた総会となりました。
しかし今後も行事を通じ
て、人と人とのコミュニ
ケーションをつなぎ、そ
のことが明日の糧となっ
ていくことを望みながら
活動してまいります。次
回三年後の総会での再開
を約束し、各自にお弁当
を渡して、終了しました。

輝く若い力

鈴木たか子(高15回)

磐城桜が丘高等学校創
立百二十周年記念式典に
出席する機会を得ました。
同窓生が先に着席し、
在校生たちが静かに入場
着席すると、アリオスの
アルパイン大ホールは、
いつの間にかほぼ満席に
なりました。
式典が進み在校生代表
のことばになりました。
男女共学に変わった時点
で違和感を持ち、そのま
ま頭の中は整理されてい
ないので、全く期待しな
い覚めた心で向き合っ
ていたのです。
ところが予想外でした。
生徒代表の彼が「温故知
新」をもとにして、話し
始めたのです。論語の
「故を温ね新しきを知る」
です。
流れている文化や伝統
は、簡単に変わってしま
うものではない事に思い
当たり、温かいものが伝
わって来ました。〇〇世
代など耳慣れない言葉が
飛び交い、目つぶしに合
っている状態でも、底に
流れるものは、大きく変

福島県立磐城桜が丘高等学校
創立百二十周年記念式典



わるものでないと言う安
心感を受け留めました。
形も大切、でも言葉が
何よりも力を持つている、
彼らの若い生命力に依っ
て、更に新しい歴史を積
み重ねて行く未来に明る
い光を見出せた時でした。
磐城桜が丘高等学校の
益々のご活躍とご発展を
お祈りいたします。

記念式典に出席して

鈴木みどり(高28回)

令和六年十月十二日(出
いわき芸術文化交流館ア
リオスにて開催されまし
た。



実行委員会は、学校職
員、同窓会役員、PTA
役員で組織され、令和五
年六月より九回の実行委
員会を重ねて準備をして
きました。
式典は午後一時より始
まり、国歌斉唱、渡邊学
校長式辞、実行委員長井
戸川保子同窓会会長あい
さつ、教育長あいさつ、
感謝状贈呈等滞りなく進
行し、二時二十分より記
念講演として本校卒業生、
現中央大学理工学部精密
機械工学科教授の新妻実
保子博士により「限界の

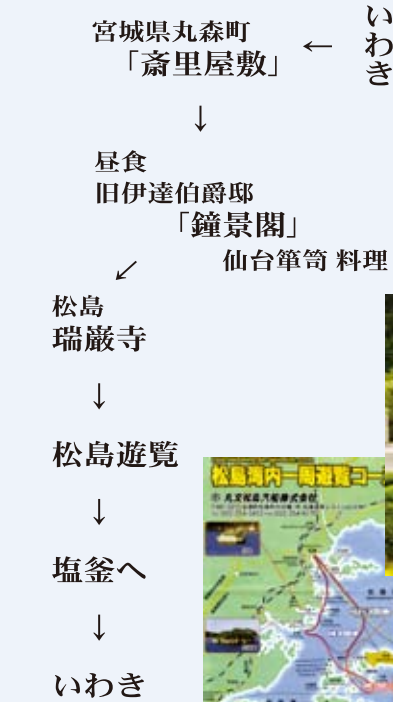
向う側インタラクシオン
(対話で拓く未来」と言
うテーマで講演をいただ
いて終了しました。
記念事業としては、
1.トレーニング機械一式
2.緑化事業
3.百二十周年記念誌発行
4.桜丘タイムス縮小版刊行
以上が実行されました。
式典が閉じ、振り返る
と、本年度の総会に初め
て男性の同窓生が一名
記念式典には二名参加さ
れていたことに喜びと、
新しい風を感じた。

役員名

顧問	高倉 ケイ子
会長	鈴木 たか子
副会長	菅波 アイ子
会計	猪狩 由美
監査	馬場 美江
庶務部長	菅波 アイ子
副部長	根本 恵美子
編集部長	渡辺 長子
副部長	鈴木 喜代子
補佐	阪田 美貴子
行事部長	愛川 正子
副部長	鈴木 サダ子
理事	大谷 英子
〈本町〉	鈴木 京子
	大戸 葉子
	吉田 智子
	斎藤 洋子
	長谷川 美代子
〈仲町〉	佐藤 光子
	猪狩 郁子
	高木 あさみ
〈大浦〉	鈴木 光江
	鈴木 啓子
	新田 淑恵
	鈴木 伸江
	渡辺 俊江
	猪狩 美恵
	野内 繁子
〈大野〉	丹野 義子
	鈴木 喜代子
	高木 しのぶ
会員数	令和4年7月現在役員 令和7年1月現在 186名

研修旅行

2023.9.10



コロナ後の旅行

愛川 正子(高21回)

令和五年九月十日、桜丘会にとって六年ぶりの旅程が山野邊会長の発案により組まれた。夫が数日前にコロナと診断され不安なままに当日を迎えた。34名の同窓生と歓談を楽しみ頃、丸森町の斎里屋敷に到着。12ヶ所の建造物は、豪華で、広大な敷地とともに、往時の豊かな生活が偲ばれた。再び高速道で、旧伊達伯爵邸「鐘景閣」に移動。メインの三段の仙台筆筍に入った16種類の料理と会席盆に並んだ料理の数々。少量づつの料理にも拘らず、満腹となった満足感と共に松島へ。日曜日ということもあり、多くの観光客が散策。瑞巖寺に参拝後松島港から、

あの頃の記録

園部キヨ子(女35回)

ウオー サイレンと共に空襲警報 「ただちに避難するよう」何度となく繰り返され授業は中断される毎日。学校は木工飛行機製作所になり体育館には機械が取り付けられた。私達は木工機に関する講義を受けさせられ普段の授業は少なくなった。上級生は横須賀、郡山の軍需工場へ学徒動員され親元を離れ辛い寂しい日々を過ごした。

戦争は益々激しくなり平一小へ爆弾が投下され平市内は焼夷弾で町中は火の海に化した。

空襲警報が頻繁に発令されるようになり、防空壕への避難で学習どころでなかった。校庭は掘り起こしてさつまいもを植え食糧難に備えた。

学生は胸に血液型、名前、住所を書いた名札を付け保存食の炒り豆や包帯等を入れた救急袋を下げていた。

全ての人が勝つまでは我慢がまんの日日だった。この戦争何時まで続くのか等考える余裕はなかった。八月十五日、体育館に集合との放送、何が起きたのか不安を抱きながらラジオから流れてきたのは陛下の玉音、終戦したことを知り抱き合って泣いた。以前のような学校生活に戻るのには時間を要したが落ち着いて授業を受けられるようになった。渡された教科書は新聞紙大の更紙に印刷されたのを糸で縫い合わせて作った。修学旅行は磐越東線の江田で下車し川前まで歩くコースだった。クラブ活動はスポーツが中心でバレーボール、バスケット、テニス等である。教科の授業も何とか落ち着いて楽しく学習することが出来るようになり、平和のありがたさがしみじみと感じられた。桜が丘のさくらは何も無かったかのように美しく咲き続けるだろう。

訃報

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

- ・令和三年五月 高4回卒 大谷 照子様
- ・高6回卒 中川 京子様
- ・令和四年三月 女35回卒 新妻 玉子様
- ・令和四年六月 高6回卒 後藤 和子様
- ・令和四年七月 女20回卒 渡辺 智恵様
- ・令和五年一月 女29回卒 鈴木 美和様
- ・令和五年二月 女36回卒 赤塚 恵子様
- ・令和五年四月 女37回卒 坂本チエ子様
- ・令和五年七月 女23回卒 木村ミヨ子様
- ・令和五年九月 女34回卒 鈴木比佐子様
- ・高24回卒 鈴木 春恵様
- ・令和五年十月 女30回卒 榎原 ヤス様
- ・令和五年十一月 女37回卒 長谷川栄子様
- ・令和六年三月 高10回卒 鈴木 節子様
- ・令和六年九月 高15回卒 佐久間トヨ子様
- ・令和六年十二月 高4回卒 小松マサ子様
- ・令和七年一月 新中2回卒 村田 敏枝様
- ・高17回卒 馬目 篤子様
- ・令和七年二月 高10回卒 吉田満知子様

編集後記

今回は研修旅行が実施されたお陰で原稿も早々に届き、会報発行に向けて準備が進んでいた矢先、暮れにまさかのコロナに感染し発熱咳込みだるさがあり最近にない辛さを経験しました。まだまだ見えないウィルスとの戦い、感染予防が必要な日常であることを痛感しました。

(渡辺)

歴史を旅して

大谷 英子(高26回)

令和五年九月十日、六年ぶりに四倉桜丘会の研修旅行が実施され、三十四名の皆様とバス旅行を満喫し、歴史ある斎里屋敷・鐘景閣・瑞巖寺と松島を訪ねました。

に魅せられました。旧伊達伯爵邸の鐘景閣では、大広間でお昼をいただきました。仙台筆筍三段には、豊かな海の幸、山の幸が盛り付けられ、目と舌で味わうことができました。

その後、瑞巖寺と松島へ。境内の庭や木立と寺院の建物が調和する風景には、気品を感じました。松島遊覧では、大黒島、毘沙門島、鐘島、仁王島を巡りました。真つ青な空と海に溶け込む島々は、絶景そのものでした。帰りのバスの中は、沢山の歌で大盛り上がり。最後に、「花は咲く」を歌いながら、一日の歴史訪問の旅を終えました。

日々を楽しむ

山田幾久子(高15回)

ふり返れば公民館活動のお花の稽古に通っていた母の送迎から、月一回位なら簡単に、華道への始まりでした。でも芸事は続ける事が大切で、何度かくじけそうになりましたが、良き先生、良き先輩達に巡り合い続けられた事は、私の人生を豊かにしてくれました。昨年迄はJ A女性部の総会には、勉強になるからとお花を飾らせてもらっ

川柳

お日様とかけひきしてる

農に生き

性に合い

自給自足そんな暮らしが

春だもの恋の一つも

咲かせたい

背筋ピンやつぱり若く

見られたい

愚かさを繰り返してる

生きている

山田幾久子